



四万十町

町内ぶらり散策

本町



先

月号は新開町を取り上げた。その新開町から吉見川を渡ったところから本町である。吉見川と国道381号に挟まれた東西に長い地区で、商店と住宅が混在した街である。街の真ん中を本町商店街が貫いている。

現在の窪川の街の成り立ちは、新開町から始まったと先月号で書いた。本町は、新開町の次に拓けた街である。慶長6年(1601年)古溪城を築いた山内一豊の家老・林勝吉(後に山内一吉と称する)が、現在の新開町に土居屋敷を構えた後、吉見川に橋を架け、血縁の者たちや配下の武士たちを、吉見川を渡った現在の本町や茂串町辺りに住ませた。これが本町の始まりである。つまり、本町は武家屋敷が集まる地区だったのである。

ところで、茂串山城があった戦国期、現在の茂串町にも土居を中心に「中世の街」は形成されていたが、現在の窪川の街のありようから見て、江戸初期に新開町から本町へと切り開かれていったことが、近代の「街」の礎となったと見て良い。

古地図などを調べてみると、現在、国道381号が走っているあたりに「馬場」があったと思われる。一吉の家臣たちは、ここで馬術を磨いた。武家屋敷の街から始まった本町は、



閉店したスーパーマーケット裏にある谷干城の記念碑

江戸期260年の間に、商工業を営む人たちが住むようになる。さらに時代が進んで、幕末には、ここ本町で、後の明治新政府の安

定に大きく貢献することになる谷干城が誕生する。ご存知の通り、谷干城は、あの西郷隆盛の反乱を止めた男である。西郷隆盛は、征韓論を唱えて新政府から下野したのち故郷鹿児島で兵を挙げ、上京を試みるのだが、出発間もない熊本で、新政府軍との激戦の末敗走することになる。西南戦争(西南の役)である。数の上では劣るものの屈強な薩摩武士で構成する強力な西郷軍に対して、寄せ集めの政府軍の不利がおかたの予想であった。しかし、当時、雌雄を決する再重要ポイントである田原坂攻防戦の前哨戦と目されていた熊本城攻防戦において、徹底的な頭脳戦による籠城作戦から反転攻勢に出た新政府軍が、西郷軍に決定的なダメージを与えたのである。直後の田原坂の戦いで、西郷軍は敗れる。この籠城作戦の総司令官が、当時、熊本鎮台であった谷干城である。干城はその後、穏健派の政治家として活動した。

本町には、現在110世帯、214人が暮らしている。

町のうごき

(7月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,329	2	男 4	7	13	8
女	9,284	-18	女 2	11	11	20
計	17,613	-16	計 6	18	24	28
世帯数	8,606	-1	(7月中の届出)			
窪川地域	12,377人		大正地域	2,506人		十和地域 2,730人

四万十川の水質状況

	適正值(mg/l)	8月9日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	1.162
アンモニウム	≤ 5.0	0.308
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.679

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部